

人間論 [英]				単位	2			
授業コード	10005	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	期間	2021年度 第1期			
担当者	崎川 修		山根 道公、橋本 晶子					
授業形態	講義							
授業形式	対面	リアルタイム遠隔	オンデマンド遠隔					
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）	F	○	○					
●本授業の概要								
<p>本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」や、他者に奉仕する精神、さらには地球環境の中で「いのち」として生きる人間のあり方の探究について、それを社会活動の中で実践している特別講師3名の講義を受けることで、自分の問題として考え、実践することを学ぶ。</p>								
●到達目標				知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。			○	○			
2	2. 他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。				○	○		
3								
4								
5								
●成績評価の基準				1	2	3	4	5
1	1 受講態度・リアクションペーパー45%			1	2			
2	2 期末レポート55%			1	2			
3								
4								
5								
●実務経験のある教員による科目				実務あり				
●実務経験の授業への活用方法								
<p>キリスト教精神に基づく他者への奉仕を社会において実践している特別講師3名を招き、具体的な活動と、その支えとなっている価値観を学生に伝える。また、大学時代の学びや経験と社会の中での生き方の具体的なつながりについて意識し、考えていくきっかけを与えることを目指す。</p>								
●日本語以外の授業への活用方法								
●授業予定一覧								
<ol style="list-style-type: none"> 導入：「人間論」で何を学ぶか 聖ジュリー・ピリアートと建学の精神（津田葵学長） キリスト教の人間理解①聖書とキリスト教の基本理解（橋本） キリスト教の人間理解②神に創造された人間（橋本） キリスト教の人間理解③イエス・キリストの福音（橋本） 新約聖書に学ぶ愛①神の愛を知る（山根） 新約聖書に学ぶ愛②イエスの生き方に学ぶ（山根） 新約聖書に学ぶ愛②隣人愛を生きる（山根） 人間として生きること①「考える葦」としての人間（崎川） 人間として生きること②ライフサイクルのなかの人間（崎川） 人間として生きること③「いのち」を見つめる（崎川） 他者と共鳴する力～国際医療ボランティアの現場から（難波 妙：AMDA理事） 持続可能な社会を創るために（池田満之：岡山ユネスコ協会会長） 								

14. みつかる、つながる、よくなっていく～人との出会い、イエスの愛
(太田直宏：公益財団法人YMCAせとうち代表理事・総主事)

15.まとめ

●試験

期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。

●試験のフィードバックの方法

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

(予習) 講義内容および必要な資料を確認し、事前の指示がある場合はそれに従って資料を読んでおく。(30分)

(復習) 講義のノートを整理し、各回の授業および特別講義の内容に関わる文献やニュースなどの収集などを行う。(30分)

●必携書（教科書販売）

『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約統編つき）,日本聖書協会
ISBN978-4-8202-1202-7

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

●オフィスアワー

授業内で指示する。質問・相談は随時、電子メールで受け付ける。

●連絡先

sakikawa@m.ndsu.ac.jp

●留意事項

- ・1～2および12～14の授業はオンデマンド遠隔により、学部合同で行う。3～11・15は各クラスの教室での対面授業を基本とし、3名の担当教員が交代で講義を行う。授業の進行については初回に説明する。
- ・授業についての連絡や遠隔授業の配信、資料の配布などは、manaba folioを通じて行う。
- ・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を書いてもらう。主体的に授業に臨むこと。
- ・『聖書』は教科書販売のものをできるだけ購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

人間論 [人]				単位	2			
授業コード	10015	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	期間	2021年度 第1期			
担当者	崎川 修		山根 道公、橋本 晶子					
授業形態	講義							
授業形式	対面	リアルタイム遠隔	オンデマンド遠隔					
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）	F	○	○					
●本授業の概要								
<p>本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」や、他者に奉仕する精神、さらには地球環境の中で「いのち」として生きる人間のあり方の探究について、それを社会活動の中で実践している特別講師3名の講義を受けることで、自分の問題として考え、実践することを学ぶ。</p>								
●到達目標				知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。			○	○			
2	2. 他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。				○	○		
3								
4								
5								
●成績評価の基準				1	2	3	4	5
1	1 受講態度・リアクションペーパー45%			1	2			
2	2 期末レポート55%			1	2			
3								
4								
5								
●実務経験のある教員による科目			実務あり					
●実務経験の授業への活用方法								
<p>キリスト教精神に基づく他者への奉仕を社会において実践している特別講師3名を招き、具体的な活動と、その支えとなっている価値観を学生に伝える。また、大学時代の学びや経験と社会の中での生き方の具体的なつながりについて意識し、考えていくきっかけを与えることを目指す。</p>								
●日本語以外の授業への活用方法								
●授業予定一覧								
<ol style="list-style-type: none"> 導入：「人間論」で何を学ぶか 聖ジュリー・ピリアートと建学の精神（津田葵学長） キリスト教の人間理解①聖書とキリスト教の基本理解（橋本） キリスト教の人間理解②神に創造された人間（橋本） キリスト教の人間理解③イエス・キリストの福音（橋本） 新約聖書に学ぶ愛①神の愛を知る（山根） 新約聖書に学ぶ愛②イエスの生き方に学ぶ（山根） 新約聖書に学ぶ愛②隣人愛を生きる（山根） 人間として生きること①「考える葦」としての人間（崎川） 人間として生きること②ライフサイクルのなかの人間（崎川） 人間として生きること③「いのち」を見つめる（崎川） 他者と共鳴する力～国際医療ボランティアの現場から（難波 妙：AMDA理事） 持続可能な社会を創るために（池田満之：岡山ユネスコ協会会長） 								

14. みつかる、つながる、よくなっていく～人との出会い、イエスの愛
(太田直宏：公益財団法人YMCAせとうち代表理事・総主事)

15.まとめ

●試験

期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。

●試験のフィードバックの方法

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

(予習) 講義内容および必要な資料を確認し、事前の指示がある場合はそれに従って資料を読んでおく。(30分)

(復習) 講義のノートを整理し、各回の授業および特別講義の内容に関わる文献やニュースなどの収集などを行う。(30分)

●必携書（教科書販売）

『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約統編つき）,日本聖書協会
ISBN978-4-8202-1202-7

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

●オフィスアワー

授業内で指示する。質問・相談は随時、電子メールで受け付ける。

●連絡先

sakikawa@m.ndsu.ac.jp

●留意事項

- ・1～2および12～14の授業はオンデマンド遠隔により、学部合同で行う。3～11・15は各クラスの教室での対面授業を基本とし、3名の担当教員が交代で講義を行う。授業の進行については初回に説明する。
- ・授業についての連絡や遠隔授業の配信、資料の配布などは、manaba folioを通じて行う。
- ・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を書いてもらう。主体的に授業に臨むこと。
- ・『聖書』は教科書販売のものをできるだけ購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

人間論 [児]					単位	2			
授業コード	10045	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	期間	2021年度 第1期				
担当者	橋本 晶子		崎川 修、山根 道公						
授業形態	講義								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）	F		○		○				
●本授業の概要									
<p>本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」や、他者に奉仕する精神、さらには地球環境の中で「いのち」として生きる人間のあり方の探究について、それを社会活動の中で実践している特別講師3名の講義を受けることで、自分の問題として考え、実践することを学ぶ。</p>									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。				○	○			
2	2. 他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。					○	○		
3									
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	受講態度・リアクションペーパー45%				1	2			
2	期末レポート55%				1	2			
3									
4									
5									
●実務経験のある教員による科目					実務あり				
●実務経験の授業への活用方法									
<p>キリスト教精神に基づく他者への奉仕を社会において実践している特別講師3名を招き、具体的な活動と、その支えとなっている価値観を学生に伝える。また、大学時代の学びや経験と社会の中での生き方の具体的なつながりについて意識し、考えていくきっかけを与えることを目指す。</p>									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
<ol style="list-style-type: none"> 導入：「人間論」で何を学ぶか 聖ジュリー・ピリアートと建学の精神（津田葵学長） キリスト教の人間理解①聖書とキリスト教の基本理解（橋本） キリスト教の人間理解②神に創造された人間（橋本） キリスト教の人間理解③イエス・キリストの福音（橋本） 新約聖書に学ぶ愛①神の愛を知る（山根） 新約聖書に学ぶ愛②イエスの生き方に学ぶ（山根） 新約聖書に学ぶ愛②隣人愛を生きる（山根） 人間として生きること①「考える葦」としての人間（崎川） 人間として生きること②ライフサイクルのなかの人間（崎川） 人間として生きること③「いのち」を見つめる（崎川） 他者と共鳴する力～国際医療ボランティアの現場から（難波 妙：AMDA理事） 持続可能な社会を創るために（池田満之：岡山ユネスコ協会会長） 									

14. みつかる、つながる、よくなっていく～人との出会い、イエスの愛
(太田直宏：公益財団法人YMCAせとうち代表理事・総主事)

15.まとめ

●試験

期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。

●試験のフィードバックの方法

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

(予習) 講義内容および必要な資料を確認し、事前の指示がある場合はそれに従って資料を読んでおく。(30分)

(復習) 講義のノートを整理し、各回の授業および特別講義の内容に関わる文献やニュースなどの収集などを行う。(30分)

●必携書（教科書販売）

『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約統編つき）,日本聖書協会
ISBN978-4-8202-1202-7

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

●オフィスアワー

授業内で指示する。質問・相談は随時、電子メールで受け付ける。

●連絡先

akiko.hashimoto.sa@gmail.com

●留意事項

- ・1～2および12～14の授業はオンデマンド遠隔により、学部合同で行う。3～11・15は各クラスの教室での対面授業を基本とし、3名の担当教員が交代で講義を行う。授業の進行については初回に説明する。
- ・授業についての連絡や遠隔授業の配信、資料の配布などは、manaba folioを通じて行う。
- ・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を書いてもらう。主体的に授業に臨むこと。
- ・『聖書』は教科書販売のものをできるだけ購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

人間論 [現]					単位	2			
授業コード	10055	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	期間	2021年度 第1期				
担当者	橋本 晶子		崎川 修、山根 道公						
授業形態	講義								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）	F		○		○				
●本授業の概要									
<p>本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」や、他者に奉仕する精神、さらには地球環境の中で「いのち」として生きる人間のあり方の探究について、それを社会活動の中で実践している特別講師3名の講義を受けることで、自分の問題として考え、実践することを学ぶ。</p>									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。				○	○			
2	2. 他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。					○	○		
3									
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	受講態度・リアクションペーパー45%				1	2			
2	期末レポート55%				1	2			
3									
4									
5									
●実務経験のある教員による科目					実務あり				
●実務経験の授業への活用方法									
<p>キリスト教精神に基づく他者への奉仕を社会において実践している特別講師3名を招き、具体的な活動と、その支えとなっている価値観を学生に伝える。また、大学時代の学びや経験と社会の中での生き方の具体的なつながりについて意識し、考えていくきっかけを与えることを目指す。</p>									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
<ol style="list-style-type: none"> 導入：「人間論」で何を学ぶか 聖ジュリー・ピリアートと建学の精神（津田葵学長） キリスト教の人間理解①聖書とキリスト教の基本理解（橋本） キリスト教の人間理解②神に創造された人間（橋本） キリスト教の人間理解③イエス・キリストの福音（橋本） 新約聖書に学ぶ愛①神の愛を知る（山根） 新約聖書に学ぶ愛②イエスの生き方に学ぶ（山根） 新約聖書に学ぶ愛②隣人愛を生きる（山根） 人間として生きること①「考える葦」としての人間（崎川） 人間として生きること②ライフサイクルのなかの人間（崎川） 人間として生きること③「いのち」を見つめる（崎川） 他者と共鳴する力～国際医療ボランティアの現場から（難波 妙：AMDA理事） 持続可能な社会を創るために（池田満之：岡山ユネスコ協会会長） 									

14. みつかる、つながる、よくなっていく～人との出会い、イエスの愛
(太田直宏：公益財団法人YMCAせとうち代表理事・総主事)

15.まとめ

●試験

期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。

●試験のフィードバックの方法

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

(予習) 講義内容および必要な資料を確認し、事前の指示がある場合はそれに従って資料を読んでおく。(30分)

(復習) 講義のノートを整理し、各回の授業および特別講義の内容に関わる文献やニュースなどの収集などを行う。(30分)

●必携書（教科書販売）

『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約統編つき）,日本聖書協会
ISBN978-4-8202-1202-7

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

●オフィスアワー

授業内で指示する。質問・相談は随時、電子メールで受け付ける。

●連絡先

akiko.hashimoto.sa@gmail.com

●留意事項

- ・1～2および12～14の授業はオンデマンド遠隔により、学部合同で行う。3～11・15は各クラスの教室での対面授業を基本とし、3名の担当教員が交代で講義を行う。授業の進行については初回に説明する。
- ・授業についての連絡や遠隔授業の配信、資料の配布などは、manaba folioを通じて行う。
- ・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を書いてもらう。主体的に授業に臨むこと。
- ・『聖書』は教科書販売のものをできるだけ購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

人間論 [食]				単位	2			
授業コード	10065	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	期間	2021年度 第1期			
担当者	山根 道公		崎川 修、橋本 晶子					
授業形態	講義							
授業形式	対面	リアルタイム遠隔	オンデマンド遠隔					
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）	F	○	○					
●本授業の概要								
<p>本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」や、他者に奉仕する精神、さらには地球環境の中で「いのち」として生きる人間のあり方の探究について、それを社会活動の中で実践している特別講師3名の講義を受けることで、自分の問題として考え、実践することを学ぶ。</p>								
●到達目標				知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。			○	○			
2	2. 他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。				○	○		
3								
4								
5								
●成績評価の基準				1	2	3	4	5
1	1 受講態度・リアクションペーパー45%			1	2			
2	2 期末レポート55%			1	2			
3								
4								
5								
●実務経験のある教員による科目				実務あり				
●実務経験の授業への活用方法								
<p>キリスト教精神に基づく他者への奉仕を社会において実践している特別講師3名を招き、具体的な活動と、その支えとなっている価値観を学生に伝える。また、大学時代の学びや経験と社会の中での生き方の具体的なつながりについて意識し、考えていくきっかけを与えることを目指す。</p>								
●日本語以外の授業への活用方法								
●授業予定一覧								
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：「人間論」で何を学ぶか 2. 聖ジュリー・ピリアートと建学の精神（津田葵学長） 3. キリスト教の人間理解①聖書とキリスト教の基本理解（橋本） 4. キリスト教の人間理解②神に創造された人間（橋本） 5. キリスト教の人間理解③イエス・キリストの福音（橋本） 6. 新約聖書に学ぶ愛①神の愛を知る（山根） 7. 新約聖書に学ぶ愛②イエスの生き方に学ぶ（山根） 8. 新約聖書に学ぶ愛②隣人愛を生きる（山根） 9. 人間として生きること①「考える葦」としての人間（崎川） 10. 人間として生きること②ライフサイクルのなかの人間（崎川） 11. 人間として生きること③「いのち」を見つめる（崎川） 12. 他者と共鳴する力～国際医療ボランティアの現場から（難波 妙：AMDA理事） 13. 持続可能な社会を創るために（池田満之：岡山ユネスコ協会会長） 								

14. みつかる、つながる、よくなっていく～人との出会い、イエスの愛
(太田直宏：公益財団法人YMCAせとうち代表理事・総主事)

15.まとめ

●試験

期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。

●試験のフィードバックの方法

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

(予習) 講義内容および必要な資料を確認し、事前の指示がある場合はそれに従って資料を読んでおく。(30分)

(復習) 講義のノートを整理し、各回の授業および特別講義の内容に関わる文献やニュースなどの収集などを行う。(30分)

●必携書（教科書販売）

『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約統編つき）,日本聖書協会
ISBN978-4-8202-1202-7

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

●オフィスアワー

授業内で指示する。質問・相談は随時、電子メールで受け付ける。

●連絡先

yamane@m.ndsu.ac.jp

●留意事項

- ・1～2および12～14の授業はオンデマンド遠隔により、学部合同で行う。3～11・15は各クラスの教室での対面授業を基本とし、3名の担当教員が交代で講義を行う。授業の進行については初回に説明する。
- ・授業についての連絡や遠隔授業の配信、資料の配布などは、manaba folioを通じて行う。
- ・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を書いてもらう。主体的に授業に臨むこと。
- ・『聖書』は教科書販売のものをできるだけ購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

人間論 [日]					単位	2			
授業コード	10085	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	期間	2021年度 第1期				
担当者	山根 道公		崎川 修、橋本 晶子						
授業形態	講義								
授業形式	対面	リアルタイム遠隔	オンデマンド遠隔						
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）	F	○	○						
●本授業の概要									
<p>本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」や、他者に奉仕する精神、さらには地球環境の中で「いのち」として生きる人間のあり方の探究について、それを社会活動の中で実践している特別講師3名の講義を受けることで、自分の問題として考え、実践することを学ぶ。</p>									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。				○	○			
2	2. 他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。					○	○		
3									
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	受講態度・リアクションペーパー45%				1	2			
2	期末レポート55%				1	2			
3									
4									
5									
●実務経験のある教員による科目					実務あり				
●実務経験の授業への活用方法									
<p>キリスト教精神に基づく他者への奉仕を社会において実践している特別講師3名を招き、具体的な活動と、その支えとなっている価値観を学生に伝える。また、大学時代の学びや経験と社会の中での生き方の具体的なつながりについて意識し、考えていくきっかけを与えることを目指す。</p>									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
<ol style="list-style-type: none"> 導入：「人間論」で何を学ぶか 聖ジュリー・ピリアートと建学の精神（津田葵学長） キリスト教の人間理解①聖書とキリスト教の基本理解（橋本） キリスト教の人間理解②神に創造された人間（橋本） キリスト教の人間理解③イエス・キリストの福音（橋本） 新約聖書に学ぶ愛①神の愛を知る（山根） 新約聖書に学ぶ愛②イエスの生き方に学ぶ（山根） 新約聖書に学ぶ愛②隣人愛を生きる（山根） 人間として生きること①「考える葦」としての人間（崎川） 人間として生きること②ライフサイクルのなかの人間（崎川） 人間として生きること③「いのち」を見つめる（崎川） 他者と共鳴する力～国際医療ボランティアの現場から（難波 妙：AMDA理事） 持続可能な社会を創るために（池田満之：岡山ユネスコ協会会長） 									

14. みつかる、つながる、よくなっていく～人との出会い、イエスの愛
(太田直宏：公益財団法人YMCAせとうち代表理事・総主事)

15.まとめ

●試験

期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。

●試験のフィードバックの方法

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

(予習) 講義内容および必要な資料を確認し、事前の指示がある場合はそれに従って資料を読んでおく。(30分)

(復習) 講義のノートを整理し、各回の授業および特別講義の内容に関わる文献やニュースなどの収集などを行う。(30分)

●必携書（教科書販売）

『聖書 新共同訳』（中型ハンディバインブル旧約統編つき）,日本聖書協会
ISBN978-4-8202-1202-7

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

●オフィスアワー

授業内で指示する。質問・相談は随時、電子メールで受け付ける。

●連絡先

yamane@m.ndsu.ac.jp

●留意事項

- ・1～2および12～14の授業はオンデマンド遠隔により、学部合同で行う。3～11・15は各クラスの教室での対面授業を基本とし、3名の担当教員が交代で講義を行う。授業の進行については初回に説明する。
- ・授業についての連絡や遠隔授業の配信、資料の配布などは、manaba folioを通じて行う。
- ・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を書いてもらう。主体的に授業に臨むこと。
- ・『聖書』は教科書販売のものをできるだけ購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

キリスト教I				単位	2
授業コード	10135	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	期間	2021年度 第2期
担当者	山根 道公				
授業形態	講義				
授業形式	対面	リアルタイム遠隔	オンデマンド遠隔		
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）		○			
●本授業の概要					
死にたいと思うほどの人生の挫折の中で聖書に出会い、生きる希望の光を見出し、作品に表わした人たちがいる。本授業ではそうした作品を導入とし、新約聖書と遠藤周作『イエスの生涯』をテキストにして、新約聖書の福音書を中心にイエスの生涯と教えについて学び、闇の中にいる人間に希望の光を与えるイエスの福音（喜びの知らせ）とはどのような精神、価値観をもつものかを考察することで、そうしたキリスト教的精神、価値観が、現代社会にあってどのような意味をもつか、理解し、さらに自分自身の問題とどのような関わりをもつか、主体的に考える力を身につけることを目的とする。また、そうした理解に必要なキリスト教の基礎知識を修得する。					
●到達目標		知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	
1	1.キリスト教の原点であるイエスの生涯とその福音について説明することができる。	○			
2	2.そうしたキリスト教的精神が現代社会にあってどのような意味をもつか、さらに自分の問題とどのように関わるか、自分の考えを述べるすることができる。		○	○	
3	3.1・2のために必要なキリスト教の基礎知識を説明することができる。	○			
4					
5					
●成績評価の基準		1	2	3	4
1	・毎回課すリアクションペーパー…45%（到達目標2）		2		
2	・期末レポート…55%（到達目標1・2・3）	1	2	3	
3					
4					
5					
●実務経験のある教員による科目					
●実務経験の授業への活用方法					
●日本語以外の授業への活用方法					
●授業予定一覧					
1. 導入：現代人と聖書、イエスの福音に出会った人たち（遠藤周作、井上洋治、三浦綾子、星野富弘、水野源三等）					
2. 『新約聖書』の構成・風土的背景					
3. イエスの生誕、クリスマスの意味					
4. 洗礼者ヨハネとイエス、メシアニズム					
5. 神の国の福音宣教、公生活の開始					
6. 奇蹟物語と慰め物語					
7. イエスの祈り					
8. ユダヤ教指導者層との対決、安息日論争					
9. 北ガリラヤへの逃避行、受難と死の予告					
10. 死を覚悟したエルサレムへの旅					
11. エルサレム入城と最後の晩餐					
12. イエスの受難と十字架の死					
13. イエスの復活顕現物語					
14. 現代人とイエスの福音					

15. まとめ・（期末レポートについて）

●試験

期末レポート

●試験のフィードバックの方法

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

（予習）毎回、次の授業のテキストの範囲を伝えるので、必ず読んで、関連の聖書の箇所、疑問点などチェックしておくこと（1時間）。

（復習）期末レポートでは、各回の授業で取り上げた重要なテーマをまとめる課題を出すので、毎回授業のまとめをしておくこと（1時間）。

●必携書（教科書販売）

<必携書>

遠藤周作『イエスの生涯』（新潮文庫）

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

<必携書>

『聖書』

●オフィスアワー

質問・相談は随時、電子メールで受け付ける。また、リアルタイム遠隔授業終了後に遠隔で受け付ける。

●連絡先

yamane@m.ndsu.ac.jp

●留意事項

・授業が一方通行にならないようにリアクションペーパーに毎回、授業の内容に対する意見・質問、またキリスト教の知識についての質問等を書いてもらい、次の授業の冒頭で応答するので、受講者は主体的に授業に臨み、自分の問題として考えること。

キリスト教学II				単位	2			
授業コード	10145	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	期間	2021年度 第1期			
担当者	橋本 晶子							
授業形態	講義							
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔			
対面授業はF または S, 遠隔授業は該当するものに ○ (複数可)								
●本授業の概要								
<聖書入門>								
『聖書』は古代のキリスト教会が編集した書物であるが、キリスト教の専有物ではない。例えば『聖書』を全人類の古典文学書として読むなら、そこには人間の生き方、社会のあり方に対する様々な根源的な問いかけが含まれていることに気づくだろう。世界のベストセラーとまでいわれる『聖書』から私たちはどのようなメッセージを受け取り、学び、生活の中で生きることができるのだろうか。								
本授業は、歴史を踏まえつつ聖書の読み方の基礎を学び、全体の構成を理解することを目的とする。特にミッションスクールでの教職を目指す学生にとっては、宗教教育の柱である『聖書』に親しむことは重要になってくる。								
『聖書』を読み、深めていくための入門として取り組んでほしい。								
●到達目標				知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	1. 聖書を的確に開き読むことができる。			○				
2	2. 聖書に描かれた時代背景を歴史的に捉え説明することができる。			○	○			
3	3. 聖書全体の構成を理解することができる。			○				
4	4. 与えられた聖書箇所を読み、日常生活とのつながりの中で味わい深めることができる。				○	○		
5								
●成績評価の基準				1	2	3	4	5
1	リアクションペーパー 45%			1	2		4	
2	課題レポート 55%			1	2	3		
3								
4								
5								
●実務経験のある教員による科目				実務あり				
●実務経験の授業への活用方法								
カトリックの修道女として、カトリック教会の信徒対象の聖書講座を行っている。また、青少年のために聖書を用いての黙想会やオンラインでの集いに関わっている。これらの経験を踏まえ、学生が講義および日常生活の中で『聖書』に親しみ自己の存在の深みにふれることを目指したい。								
●日本語以外の授業への活用方法								
●授業予定一覧								
1. 導入ー『聖書』は世界のベストセラー								
2. 『聖書』世界の概観 (対面)								
3. 旧約聖書の構成								
4. 旧約聖書と歴史								
5. 旧約聖書と文化								
6. 旧約聖書と生活								
7. 旧約聖書箇所の分かち合いーグループディスカッション								
8. 新約聖書の構成 (対面)								
9. 新約聖書ーマタイによる福音書								

10. 新約聖書ーマルコによる福音書
11. 新約聖書ールカによる福音書
12. 新約聖書ーヨハネによる福音書
13. 新約聖書ー手紙
14. 新約聖書箇所のかち合いーグループディスカッション（対面）
15. まとめー『聖書』と私たちをつなぐもの

●試験

レポート（講義内容と参考文献をふまえ、課題レポートに取り組む）

●試験のフィードバックの方法

manaba folioでの全体へのフィードバックを行う。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

毎回、授業の終わりに聖書の読む箇所を指定するので、聖書を開き読むことに慣れてほしい。また出席確認は授業後のリアクションペーパーの提出となるので10分～15分程度の振り返りが必要である。

●必携書（教科書販売）

『聖書 新共同訳』，日本聖書協会

※基本的には大学で購入したものを使用する。

※ミッションスクール出身者で既に持っている場合はその聖書を使用してもよいが、新約聖書のみである場合は旧約聖書も入っているものを購入することを勧めたい。

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

<必携書・参考書>

必要に応じて、manaba添付にて配布する。

●オフィスアワー

水曜日・木曜日の昼休み（キリスト教文化研究所）またはメールにて。

●連絡先

akiko.hashimoto.sa@gmail.com

●留意事項

- ・毎時間のリアクションペーパーの提出が出席確認となる。
- ・映画教材を使用する場合は、対面授業となる場合があるが状況をみて判断する。
- ・グループディスカッションはリアルタイムzoomとする。
- ・manaba folioでの連絡を必ず確認すること。

※履修者の人数が上限に達した場合は、4年生および3年生を優先し決定する。（3月31日追加事項）

キリスト教学Ⅲ					単位	2			
授業コード	10155	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	期間	2021年度 第2期				
担当者	崎川 修		小林 修典、山根 道公、橋本 晶子						
授業形態	講義・実習								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）	F		○		○				
●本授業の概要									
本講義では、主にクリスマスを中心として、キリスト教の典礼や宗教文化とその意義について多面的に学ぶ。とくに本学のクリスマスミサおよび関連行事の準備と実施を通じて、ミサを中心としたカトリックの祈りの文化についての理解を深め、本学の建学の精神を主体的、協働的に体得することを目指す。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	カトリックのミサや祈りの文化についての基本的な知識を備え、それについて説明することができる。				○				
2	クリスマスの準備とミサの実施を通して、祈りの場をつくるための実践的な課題に主体的に向き合い、他者と協働してそれらを解決することができる。					○	○		
3									
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	リアクションペーパー 20%				1				
2	クリスマスの準備とミサへの参加 40%					2			
3	レポート 40%				1				
4									
5									
●実務経験のある教員による科目					実務あり				
●実務経験の授業への活用方法									
クリスマスミサを中心に、本学の建学の精神であるキリスト教における祈りの文化を学び、体得するために、カトリック教会の修道女（橋本）による講義と実習指導、また本学非常勤講師で指揮者の大谷文彦氏の特別講義により、ミサの準備と実践を含んだ主体的な学びを取り入れた授業を行う。また、恵まれない子どもたちにクリスマスプレゼントを届ける活動を行っているNPO法人理事による特別講義を通じて、クリスマスの意義を生きた社会的実践のうちに理解することを促す。									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
1. オリエンテーション（崎川・橋本）									
2. キリスト教の暦と行事（橋本）									
3. クリスマスの歴史と意義（山根）									
4. サンタクロースになるということ（特別講師 河津泉：NPO法人チャリティーサンタ理事）									
5. 日本文化とクリスマス（小林）									
6. 児童文化のなかのクリスマス（小林）									
7. キリスト教と祈りの意味（橋本）									
8. ミサを学ぶ（橋本）									
9. ミサの中の音楽（特別講師 大谷文彦）									
10. クリスマスの音楽（特別講師 大谷文彦）									
11. クリスマスの典礼（特別講師 大谷文彦）									
12. とともに祝うクリスマス（ミサへの参加）									
13. 愛と祈りを生きる女性（山下）									

14. 本学の伝統と祈りの文化（山下）

15. まとめ（崎川・橋本）

●試験

期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。

●試験のフィードバックの方法

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

（予習）授業内で行われるクリスマス行事についてのグループワークに必要な資料を準備する。（30分）

（復習）配布されたプリント資料を読み、典礼や聖書の意味内容を確認する。（30分）

●必携書（教科書販売）

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

<必携書>

『聖書 新共同訳』，日本聖書協会

<参考書等>

授業内で指示する

●オフィスアワー

授業内にて指示する。質問・相談は随時、電子メールで受け付ける。

●連絡先

sakikawa@m.ndsu.ac.jp

●留意事項

・定員100名。

希望者多数の場合は、初回の授業までに抽選を行う。

（受講できなかった場合でも、クリスマスミサには参加できるよう、履修学生以外の参加枠を設ける予定である。）

・対面による実習と授業を基本とし、状況に応じて遠隔授業を併用する。詳しくは初回までにmanaba folioを通じて連絡する。

・初回に希望を取り、クリスマス行事の準備と実施のためのグループ分けを行う。

・各授業の中で、各グループによる準備実習を進めていく予定である。

・行事を主体的につくりあげていく積極性を備えた学生の受講を求める。

キリスト教学IV					単位	2			
授業コード	10165	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	期間	2021年度 第2期				
担当者	西井 麻美								
授業形態	講義・演習								
授業形式	対面	リアルタイム遠隔	オンデマンド遠隔						
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）			○						
●本授業の概要									
現代社会に対して、カトリックはどのように向き合うことを勧めているだろうか。現代社会の様々な課題（女性の社会参加と教育、持続可能な社会づくり、平和・多文化共生など）に関わって、出されているカトリックのメッセージに着目しながら、これからの社会を生きる指針について考える。文献・資料として、教皇のメッセージなどを参照する。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	キリスト教の価値観を自らの生活に生かす省察ができる。					○	○		
2	現代にひきつけてカトリックの精神について説明できる。				○				
3									
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	授業態度……50%				1				
2	課題提出（レポート）……50%				1	2			
3									
4									
5									
●実務経験のある教員による科目									
●実務経験の授業への活用方法									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
1 オリエンテーション									
2 聖書に描かれた女性									
3 キリスト教精神を読み解く：聖母マリア									
4 キリスト教精神を読み解く：神、天使									
5 キリスト教精神を読み解く：諸聖人									
6 カトリック校									
7 たとえ話から学ぶ：天地創造									
8 たとえ話から学ぶ：命の水									
9 たとえ話から学ぶ：知恵、真の自由人									
10 神の慈しみが注がれている被造界									
11 開発に関わるカトリックのメッセージ									
12 キリスト教精神を読み解く：アシジの聖フランシスコ									
13 回勅を読む：現代社会を取り巻く課題：寛容、多文化共生									
14 回勅を読む：家族									
15 若者に関わるカトリックのメッセージ									

●試験
定期試験（レポート）
●試験のフィードバックの方法
留意点について解説する。（資料提示等）
●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容
（予習）テーマについて、関連する資料・文献を各自で調べること。（約1時間） （復習）授業で考えたこと、学んだことを整理しながら、さらに考えたことをポートフォリオにまとめておくこと。（約1時間）
●必携書（教科書販売）
なし
●必携書・参考書等（教科書販売以外）
<参考書等> 『回勅 ラウダート・シ』， 教皇フランシスコ， カトリック中央協議会 『聖書』
●オフィスアワー
木曜9.10限（授業担当週については、授業中に指示する。）
●連絡先
西井：mnishii@m.ndsu.ac.jp
●留意事項
履修定員を70名を上限とし、登録順（申し込み順）で登録者を決定する。授業はオンデマンド（マナバフォリオ利用）で行う。 （3月31日追記）

キリスト教学V					単位	2			
授業コード	10175	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	期間	2021年度 第2期				
担当者	橋本 晶子								
授業形態	講義・実習								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）									
●本授業の概要									
<祈りと実存>									
<p>宗教や宗派の違いを超えて、人はそれぞれの方法で共に祈ることができる。宗教は文明に衝突をもたらすと言われるが、その反面祈りは、人間の生や死に直接関わっており、希望を創造し、様々な問題の関係修復の突破口にもなり得ると考えられる。</p> <p>本授業では宗教的事例を分析し、祈る人間の態度、思想、世界観などを提示しながら、祈りの潜在的な可能性を探ることを目的とする。たとえば、困難や危機的状況にある人間は、どのように祈りによって自己の統合を図ろうとするのだろうか。実際に、様々な祈りの手法も紹介しながら、日常生活に活かせる実存的な祈りの習得も目指したい。</p> <p>また、ミッションスクールでの教員希望の学生は、宗教教育の中心である祈りの体験を特に深めてほしい。</p>									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	1. 沈黙、静寂の経験を通して、「祈り」において心の動き、焦り、ざわつきなどに気づき、日常生活の中で「祈ること」がいかに、様々な物事、出来事への「洞察」と関わっているかを観ることができる。				○	○			
2	2. 授業で配布するプリント資料を熟読することによって、大学の理念でもあるキリスト教精神にもとづく、真なるもの・善なるもの・美なるものを追求し考察することができる。				○				
3	3. 聖イグナチオ・デ・ロヨラの祈りの方法論である『靈操』の精神にふれながら、祈りのエクササイズを行い「洞察力」の感得を目指し、日々の生活で実践することができる。						○		
4	4. アクティブ・ラーニングをとおしてグループで対話し、毎回、リアクション・ペーパーにおいて「経験を言葉化する」ことができる。					○	○		
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	リアクションペーパー45%				1	2		4	
2	レポート 55%					2	3	4	
3									
4									
5									
●実務経験のある教員による科目					実務あり				
●実務経験の授業への活用方法									
<p>カトリックの修道女として、東日本大震災、西日本豪雨災害など被災地での諸宗教の祈り、また東アジアのキリスト教ネットワークと連携し、平和への祈りを継続している。</p> <p>また、現在は青少年の人生の選定における黙想会や祈りの集いに関わっている。これらの経験を踏まえ、学生が講義および日常生活の中で「祈り」を経験し考察するプロセスを通して、自己の存在の深みにふれることを目指したい。</p>									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入ー祈りとは（対面） 2. 祈りの諸相①日常性 3. 祈りの諸相②通過儀礼と人間成長 4. 祈りの諸相③儀式 									

5. 祈りの諸相④身体性
6. 祈りの諸相⑤非暴力
7. 祈りの方法論：テゼ共同体と祈り（対面）
8. 祈りの方法論：ロヨラの聖イグナチオ『靈操』を参考に①聖イグナチオの生涯
9. 祈りの方法論：ロヨラの聖イグナチオ『靈操』を参考に②わたしの歴史/物語/内省
10. 祈りの方法論：ロヨラの聖イグナチオ『靈操』を参考に④選び・識別（対面・特別講師：司祭）
11. 不条理と祈り①自然災害の中で
12. 不条理と祈り②惨禍の中で－祈りのナガサキ、怒りのヒロシマ
13. 不条理と祈り③死に向かう中で
14. 共に祈る体験
15. まとめ－祈りと実存

●試験

レポート

●試験のフィードバックの方法

manaba folioにてレポート総括を掲載する。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

授業内容全体に関係する「文献表」を配布するので、補助的読書に取り組むこと。

また、授業内で提示する「祈りのエクササイズ」を日常生活の中で実践してほしい。また、出席確認は授業後のリアクションペーパーの提出となるので10分～15分程度の振り返りが必要である。

●必携書（教科書販売）

使用しない。

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

<必携書>

『聖書』各自で用意すること。授業中に指示する。

<参考書等>

授業中に、必要に応じて資料プリントを配布する。

●オフィスアワー

水曜日・木曜日の昼休み（キリスト教文化研究所）またはメールにて。

●連絡先

akiko.hashimoto.sa@gmail.com

●留意事項

- ・本授業を履修する学生は時間厳守のうえ、不要な私語を謹むこと。
- ・manaba folioでの連絡事項を必ず確認すること。

※新型コロナウイルス感染拡大の状況をみながら、対面の時期を調整する可能性がある。

キリスト教学VI					単位	2				
授業コード	10185	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	期間	2021年度 第1期					
担当者	出村 和彦									
授業形態	講義									
授業形式	対面			リアルタイム遠隔			オンデマンド遠隔			
対面授業はF または S, 遠隔授業は該当するものに ○ (複数可)										
●本授業の概要										
アウグスティヌス(354-430)の生涯と思想を通じてみた古代末期キリスト教の成立を概観すると共に、アウグスティヌスを通じて形成されてきた西欧のキリスト教の特徴をわかりやすく講義する。										
●到達目標					知識・技能	思考・判断・ 表現力	主体性			
1	アウグスティヌスという古代末期に生きたキリスト教思想家の生涯を知ること、彼が一生を通じて古典古代ローマ文化と身をもって架橋させる形で形成していった西欧のキリスト教の特徴を理解できるようになること。				○	○	○			
2										
3										
4										
5										
●成績評価の基準					1	2	3	4	5	
1	毎回の積極的応答コメント・小レポート 30%				1					
2	中間レポートと期末レポート合わせて 70%				1					
3										
4										
5										
●実務経験のある教員による科目										
●実務経験の授業への活用方法										
●日本語以外の授業への活用方法										
●授業予定一覧										
1 はじめに：授業の進め方：アウグスティヌスのイメージ										
2 古代末期のキリスト教の状況 新約聖書からニカイア信条まで										
3 アウグスティヌスの生い立ち：学校での古典文学教育とキリスト教										
4 アウグスティヌスの青春：哲学への目覚め										
5 漂泊者の心：キリスト教とマニ教										
6 別離と苦悩：「心」の哲学へ										
7 新プラトン哲学との出会いとパウロ書簡の読解										
8 回心：聖書を心の内に理解していくことへ										
9 永遠のエルサレム：希望と愛について										
10 真の宗教を求めて										
11 修道規則										
12 『キリスト教の教え』										
13 『告白録』										
14 アウグスティヌスが信じて理解したキリスト教										
15 まとめ										

●試験
期末試験（レポート）
●試験のフィードバックの方法
●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容
次の授業までに読むべき教科書の箇所を指定するのでそこを読んだ上で授業に臨むこと。毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書、参考URLを紹介する。興味のある内容に関してそれを参考に理解を深めてほしい。特にレポートには、毎回の小レポート応答と日々の文献研究で深めたテーマに関してより多角的に、発展的な論述を求める。付け焼き刃では間に合わないので、毎回授業を真剣に聴くと共に、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習を進めてほしい。
●必携書（教科書販売）
<必携書> 『アウグスティヌス「心」の哲学者』， 出村和彦， 岩波書店 アウグスティヌス『告白』Ⅰ， アウグスティヌス 山田晶訳， 中央公論新社 アウグスティヌス『告白』Ⅱ， アウグスティヌス 山田晶訳， 中央公論新社
●必携書・参考書等（教科書販売以外）
●オフィスアワー
授業の前後に質問を受け付ける。
●連絡先
demura@okayama-u.ac.jp
●留意事項

キリスト教学VII					単位	2
授業コード	10205	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	期間	2021年度 第2期	
担当者	小林 修典		津田 葵			
授業形態	講義					
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔	
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）	F		○			
●本授業の概要						
<p>・本授業のテーマは、「グローバル社会に生きる聖ジュリーの精神」である。</p> <p>・本大学の設立母体であるナミュール・ノートルダム修道女会の創立者、聖ジュリー・ピリアートの精神、すなわち、善き神の恵みに生き、人びとに奉仕する喜びに思いをいたし、グローバル社会の課題の解決に私たち一人ひとりがどのように参加できるかを考えていくことを目的とする。</p> <p>・世界で活躍しているナミュール・ノートルダム修道女会のシスターたちによる、1) 聖ジュリーの精神と、2) グローバル社会の問題への奉仕と教育活動を通じての取り組みとについての講義を、遠隔授業を通じて体験する。</p> <p>・英語を生で聞くことで、国際的なコミュニケーション能力を高めるとともに、英語での講義に慣れる。</p>						
●到達目標			知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	
1	聖ジュリーの、愛と奉仕の精神について説明できる。		○	○	○	
2	グローバル社会の複雑な問題について、多角的で平等な視点から説明できる。		○	○	○	
3						
4						
5						
●成績評価の基準			1	2	3	4
1	平常点（ディスカッションへの参加・課題） 30%		1	2		
2	課題レポート 30%		1	2		
3	期末レポート 40%		1	2		
4						
5						
●実務経験のある教員による科目						
●実務経験の授業への活用方法						
●日本語以外の授業への活用方法			英語（外国人のシスターたちの講義）			
●授業予定一覧						
「 」はシスターたちによる講義						
グローバル社会に生きる聖ジュリーの精神						
1 インTRODクッション（対面授業）						
2 基調講義 「グローバル社会に生きる聖ジュリーの精神」 Sr. 津田葵（対面授業）						
聖ジュリーの精神とナミュール・ノートルダム修道女会						
3 「聖ジュリーの精神とは ①」 Sr. Judith A Merkle						
4 ディスカッション（対面授業）						
5 「聖ジュリーの精神とは ②」 Sr. Judith A Merkle						
6 「ナミュール・ノートルダム修道女会の使命 ①」 Sr. Lorraine Connell						
7 「ナミュール・ノートルダム修道女会の使命 ②」 Sr. Lorraine Connell						
8 ディスカッション（対面授業）						

グローバル社会とキリスト教

- 9 「グローバル化とカトリック社会教説 ①」 Sr. Marie Ann Prefontaine
 10 「グローバル化とカトリック社会教説 ②」 Sr. Marie Ann Prefontaine
 11 「地域・国境を越えた国際感覚」 Sr. Jean Stoner
 12 ディスカッション (対面授業)

ナミュール・ノートルダム修道女会の国際的使命

- 13 「国連での活動を通じての国際的使命 ①」 Sr. Amarachi Ezeonu
 14 「国連での活動を通じての国際的使命 ②」 Sr. Amarachi Ezeonu
 15 ディスカッション (対面授業)

●試験

期末レポート (定期試験時に提出する)。

●試験のフィードバックの方法

レポート提出後に講評する。

●準備学習 (予習・復習) に必要な学修内容

前回の講義内容の理解を確認したうえで、毎回の講義に臨む。(30分)
 授業後は、講義内容を確認、整理し、ディスカッションに備える。(60分)

●必携書 (教科書販売)

使用しない。

●必携書・参考書等 (教科書販売以外)

必要に応じて、印刷物を配布する。

●オフィスアワー

オフィスアワーは授業中に指示する。

●連絡先

shusuke@post.ndsu.ac.jp (小林)

●留意事項

- 1) 遠隔授業では、毎回、課題の提出をもって出席とみなす。
- 2) 2回目の基調講義は日本語で行われるが、それ以降のシスターたちの講義は英語で行われる。
- 3) 英語での講義については、必要に応じて、事前あるいは事後に、日本語による解説が加えられる。
- 4) ディスカッションは日本語で行う。
- 5) 日頃から、グローバル社会の動向に対して関心を持ち、問題意識を高めて授業に臨むことが求められている。

キリスト教学VIII					単位	2			
授業コード	10215	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	期間	2021年度 第1期				
担当者	高木 孝子								
授業形態	講義								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はF または S, 遠隔授業は該当するものに ○ (複数可)									
●本授業の概要									
人生の途上でぶつかる孤独・自己嫌悪・挫折・友情・愛・性などの問題から、私たちにとって生の意味をキリスト教を通して検討していきたい。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・ 表現力	主体性		
1	フェミニスト神学の視座から光をあて、女性をめぐるイデオロギーとステータスの 相関性について探究していきたい。					○			
2									
3									
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	受講態度 20%				1				
2	課題の達成度 20%				1				
3	学期末のレポート 60%				1				
4									
5									
●実務経験のある教員による科目									
●実務経験の授業への活用方法									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
1. 自分との出会い 2. 自己を受容するとは 3. 自己受容 4. 大地のように私たちを包むもの—同伴者イエス 5. 女性の見るイエスの顔 6. イエスの女性に対する振る舞い方—当時の女性たちの地位と役割 7. イエスの見た男女の共生のあり方 8. 心の通いを求めて 9. 友情の真実と哀しみ 10. 愛されない悩みと愛しえない苦しみ 11. 愛と許し 12. 性を考える 13. 信じ合うことの難しさと喜び 14. イエスの姿—愛に満ちた自由人 15. まとめ									

●試験
レポート
●試験のフィードバックの方法
●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容
配布するプリント資料に目を通しておくこと。また授業内で扱った聖書の箇所についても、読み直しておくこと。
●必携書（教科書販売）
●必携書・参考書等（教科書販売以外）
<p><必携書> 授業中に資料を配布する。</p> <p><参考書等> 聖書 その他は授業中にそのつど指示する。</p>
●オフィスアワー
授業中に指示する。
●連絡先
kirikyo@m.ndsu.ac.jp
●留意事項
人生の重要な課題である「生の意味」について学ぶ好機として、積極的な参加を期待する。

キリスト教学IX					単位	2				
授業コード	10225	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	期間	2021年度 第2期					
担当者	崎川 修									
授業形態	講義									
授業形式	対面			リアルタイム遠隔			オンデマンド遠隔			
対面授業はF または S, 遠隔授業は該当するものに○ (複数可)										
●本授業の概要										
「対話としての信仰：キリスト教的生き方の探求」 キリスト教の根本的な教えである「隣人愛」の本質を見つめながら、いかにして自己の人生を「他者との対話」の内に深め、歩むことができるかを考える。福音書におけるイエスの生き方を基本にしつつ、日常的、臨床的な視点との往復を通じて、信仰や祈りの中に生きることのリアリティに触れてほしい。 (本講義は第2期授業期間中、毎週1回のオンデマンド配信によって開講される。詳しくは「留意事項」を参照のこと。)										
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力		主体性		
1	1. キリスト教と聖書についての基礎的な知識を身につける。				○					
2	2. 新約聖書、とくに福音書の読解を通じて、そこで示されている「愛」や「いのち」についてのメッセージを理解し、それに基づいた倫理的な判断を行うことができる。				○	○			○	
3	3.キリスト教的な生き方の本質を、自分自身の人生の問題に照らして考察し論じることができる。				○	○			○	
4										
5										
●成績評価の基準					1	2	3	4	5	
1	受講態度、リアクションペーパー:50%				1	2				
2	期末レポート:50%				1	2	3			
3										
4										
5										
●実務経験のある教員による科目										
●実務経験の授業への活用方法										
●日本語以外の授業への活用方法										
●授業予定一覧										
1. 導入：隣人とは誰のことか										
2. 「よきサマリア人のたとえ」を読む										
3. イエスとその時代										
4. 福音書のイエス像										
5. 「サマリアの女」を読む										
6. イエスと対話的霊性										
7. イエスにおける「死の準備」										
8. 「ラザロの死」を読む										
9. 復活とは何か										
10. 聖性と神秘										
11. 「サウロの回心」を読む										
12. 神との対話										
13. クリスマスのメッセージ										
14. 祈りの方法論										

15.まとめ

●試験

期末レポートを提出してもらおう。内容については授業内で指示する。

●試験のフィードバックの方法

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

（予習）講義予定に従って、該当する聖書の箇所と配布資料に目を通しておく。（30分）

（復習）授業内で扱った聖書の箇所を、その前後を含めて読み直し、ノートをまとめる。（30分）

●必携書（教科書販売）

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

<必携書>

『聖書 新共同訳』，日本聖書協会
 その他プリントを随時配布する。

<参考書等>

授業内で随時紹介する。

●オフィスアワー

授業内で指示する。質問・相談は随時、電子メールで受け付ける。

●連絡先

sakikawa@m.ndsu.ac.jp

●留意事項

- ・本講義はmanaba folioを通じた遠隔授業として開講される。授業は第2期授業期間内に、毎週1回の配信を行う。配信曜日は木曜日を予定している。詳しい授業方法は初回の講義日（9月30日）までにmanabaで告知する。
- ・受講者には毎回manabaのレポートフォームからリアクションの提出が課され、その提出をもって講義を受講したものとみなす。リアクションの未提出が5回を超える場合には、単位を与えない場合がある。
- ・レポートにおいてネットや文献からの無断流用が認められた場合は、単位を与えないので注意すること。

キリスト教学X					単位	2			
授業コード	10235	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	期間	2021年度 第2期				
担当者	上田 恭嗣								
授業形態	講義								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はF または S、遠隔授業は該当するものに ○（複数可）									
●本授業の概要									
この講義は、西洋における宗教建築の成り立ち、教会建築の成立史、教会建築における特色等を修得し、祈りの空間がどのようにしてつくられてきたのか学び取ることを目的とする。宗教建築の成立・様式には、国・地域・時代・思想・生活等々によっても様々な表現があり、西洋では近世までキリスト教に関連する意匠は、人々の生活と深く結びつくものであった。人が祈りやすらぐ空間を理解し、人が生きていく上での建築空間の在り方について学ぶ。manaba folio等を活用し、課題学習も行う。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	古代から現代に至る宗教建築の建設経緯と変遷について学び取り、人が祈る建築空間の在り方について説明することができる。				○	○	○		
2	人が生きていく上でも大切な宗教建築の建設への思い、位置づけについて、自分なりの考え方をもち説明できる。				○	○	○		
3	国、人種、地域の違いによってつくられた宗教建築の特色について、説明することができる。				○	○			
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	プレゼンテーション 20%				1	2			
2	祈りの建築空間を考えるレポート課題 20%					2	3		
3	身近な教会建築を視察したレポート 30%					2	3		
4	小試験 30%					2	3		
5									
●実務経験のある教員による科目					実務あり				
●実務経験の授業への活用方法									
実務として近代建築の保存活用に関する調査研究を行ってきた立場から、宗教建築の意義、役割、他の建築に及ぼした影響について実例を交えて伝える。また、建築のなかでも多くの人々を安堵させ、心を開かせる教会建築の空間について、これまで見聞してきた建築空間との違いについて伝える。									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
1. 建築の成立・建築とは									
2. 宗教建築の成り立ち									
3. エジプトにおける宗教建築									
4. ギリシャ時代の宗教建築									
5. ローマ時代の宗教建築									
6. 初期キリスト教建築様式の誕生									
7. ローマ帝国の東西分裂による教会建築の誕生									
8. ロマネスク建築様式による教会建築の伝搬									
9. ゴシック建築様式による教会建築									
10. ルネサンスと教会建築									

11. 宗教改革とバロック建築様式の教会
12. 近代における教会建築の流れ
13. 近代以降の教会建築の流れ・本学聖堂見学
14. 日本におけるキリスト教伝来と教会建築様式
15. 現代の日本における教会建築と宗教建築

●試験

小レポート・課題研究

16週目に筆記試験

●試験のフィードバックの方法

16週目の試験終了後に問題解説を行う。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

建築の書籍等に関心を持ち、宗教建築に関する基礎的知識を身につけること。

配布資料等による予習・復習を行うこと(約1時間)。

講義ノートを毎回取りまとめ、理解度を高めること(約30分)。

●必携書（教科書販売）

使用しない

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

<参考書等>

聖書、「新・建築入門」隈研吾 ちくま新書、「図説 西洋建築の様式」鈴木博之編 彰国社、「ヨーロッパ建築史」西田雅嗣編
昭和堂、「大原美術館の誕生」上田恭嗣 山陽新聞社

毎回の講義時に資料を配布する

●オフィスアワー

質問等は、メールで受け取る

●連絡先

shaji@post.ndsu.ac.jp

●留意事項

将来、海外等への視察時、教会建築に関心を持ち建築様式の伝搬・影響について考えるきっかけとなって欲しい。また、日頃の街歩きにおいて、建築を見る視点を高めて欲しい。

キリスト教学XI					単位	2			
授業コード	10245	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	期間	2021年度 第2期				
担当者	出村 和彦								
授業形態	講義								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はF または S、遠隔授業は該当するものに ○（複数可）									
●本授業の概要									
アウグスティヌス(354-430)の後半生の司教としての働きを通じて見えてくるキリスト教の特徴的な観点とその後の西欧や日本のキリスト教思想に与えた影響をわかりやすく講義する。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	アウグスティヌスの思想を通じて、キリスト教の特徴的な観点を理解できるようになること。				○	○	○		
2									
3									
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	毎回の積極的応答コメント・小レポート 30%				1				
2	中間レポートと期末レポート合わせて 70%				1				
3									
4									
5									
●実務経験のある教員による科目									
●実務経験の授業への活用方法									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
1 はじめに：授業の進め方：真の宗教を求めて									
2 アウグスティヌスから学んで（1）永遠と時間									
3 アウグスティヌスから学んで（2）時間とは何か									
4 信仰・希望・愛									
5 キリスト教で信仰する神は父と子と聖霊の三位一体の神である									
6 希望を示す〈主の祈り〉									
7 愛の掟・愛の秩序 キリスト教文化の指針									
8 「私の重さは私の愛である」									
9 アウグスティヌス時代の教会の状況（1）：ドナティスト分派と教会の一致									
10 司教アウグスティヌスの取り組み									
11 アウグスティヌス『神の国』									
12 アウグスティヌス時代の教会の状況（2）ペラギウス論争									
13 人類の起源に関する考察 アダムとエヴァ									
14 原罪と根本悪									
15 アウグスティヌスの著作の保存と伝播と受容 まとめ									

●試験
期末試験（レポート）
●試験のフィードバックの方法
●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容
次の授業までに読むべき教科書の箇所を指定するのでそこを読んだ上で授業に臨むこと。毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書、参考URLを紹介する。興味のある内容に関してそれを参考に理解を深めてほしい。特にレポートには、毎回の小レポート応答と日々の文献研究で深めたテーマに関してより多角的に、発展的な論述を求める。付け焼き刃では間に合わないので、毎回授業を真剣に聴くと共に、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習を進めてほしい。
●必携書（教科書販売）
<必携書> 『アウグスティヌス「心」の哲学者』， 出村和彦， 岩波書店 アウグスティヌス『告白』Ⅲ， アウグスティヌス 山田晶訳， 中央公論新社
●必携書・参考書等（教科書販売以外）
●オフィスアワー
授業の前後に質問を受け付ける。
●連絡先
demura@okayama-u.ac.jp
●留意事項
1期キリスト教学VIの続きで、継続して履修することが望ましいが、2期からの新たな受講を妨げるものではない。2期から履修する学生は教科書『アウグスティヌス「心」の哲学者』前半を予め読んで授業に臨んで下さい。

キリスト教学XII					単位	2			
授業コード	10255	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	期間	2021年度 第1期				
担当者	杉山 博昭								
授業形態	講義								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）									
●本授業の概要									
イエスの教えの中心は、愛である。「隣人を愛せよ」が第一の掟である。隣人とは、誰かという律法の専門家の質問に対して、イエスはよきサマリア人のたとえを話された。私にとっての隣人は誰かではなく、隣人になりなさいとの教えであった。そのことを、実際に隣人愛に生きたキリスト者の行動の軌跡をみるなかで理解する。とくに岡山に関係した動きとカトリック福祉の動きを重視する。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	社会福祉の理念について、実践の歩みを通じて説明することができる。				○	○			
2	社会福祉の先駆者の功績について説明することができる。				○		○		
3	社会福祉とキリスト教との関係について説明することができる。				○	○			
4	社会福祉実践やボランティア活動への関心を高め、自ら取り組むことができる。					○	○		
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	授業時の課題 30%				1	2	3		
2	レポート 70%				1	2	3	4	
3									
4									
5									
●実務経験のある教員による科目					実務あり				
●実務経験の授業への活用方法									
特別養護老人ホームや障害者作業所で高齢者や障害者の支援に携わった経験から、福祉実践における理念や価値が現場の実践において大切であることを具体的な事例などから説明し、理念と実践を結びつけた社会福祉論を提示していく。									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
1 社会福祉とキリスト教									
2 ド・ロ神父と長崎の女性たち									
3 石井十次と岡山孤児院（1） 孤児院の創設と展開									
4 石井十次と岡山孤児院（2） 石井の思想とその意義									
5 アリス・アダムスと岡山博愛会									
6 岡山出身のキリスト教社会事業家（1）山室軍平									
7 岡山出身のキリスト教社会事業家（2）留岡幸助									
8 福祉を支える 大原孫三郎									
9 知的障害者とともに 石井亮一・筆子									
10 カトリックによるハンセン病患者への支援 テストウィド神父 岩下壮一 井深八重									
11 病のなかにある人のなかで 戸塚文卿 フロジャク神父									
12 賀川豊彦の活動									
13 視覚障害者の福祉 岩橋武夫 ヘレン・ケラーの来日									
14 キリスト教と保育									
15 戦後の復興とカトリック									

戦災孤児とカトリック福祉 北原怜子と「アリの町」

●試験

社会福祉実践者について探求したレポートを提出する。

●試験のフィードバックの方法

授業終了後も、メール等での質問を受け付ける。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

取り上げる人物に関する参考文献を、事前または事後に各自で読むこと。人物のに関する情報を文献やインターネット等で収集しておくこと。これら事前・事後の学習を各1～2時間程度行うこと。

●必携書（教科書販売）

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

<必携書>

教科書は使用しない。授業時にプリントを添付する。

<参考書等>

『聖書』（日本聖書協会の新共同訳または聖書協会共同訳が望ましいが、他でも可）

●オフィスアワー

オフィスアワー、火曜日 3・4時限

質問は随時電子メールで受け付ける。

●連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

●留意事項

人間生活学科社会福祉士課程の学生は、受講することが望ましい。もちろん、他の学生の受講も歓迎する。

キリスト教学XIII					単位	2			
授業コード	10285	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	期間	2021年度 第1期				
担当者	小林 修典								
授業形態	講義								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）									
●本授業の概要									
日本の社会において、子どもたちの人間形成と教育に、キリスト教はどのようにかかわってきたのかを概観する。日本の児童文化の歩みのうちに、キリスト教精神やキリスト教的ヒューマンイズムを探っていく。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	1 さまざまなジャンルの児童文化とキリスト教とのかかわりについて説明ができる。				○	○	○		
2	2 聖書物語が子どもにわかるように説明できる。				○	○	○		
3									
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	平常点（授業への取り組み） 20%				1	2			
2	課題レポート 30%				1	2			
3	期末レポート 50%				1	2			
4									
5									
●実務経験のある教員による科目									
●実務経験の授業への活用方法									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
○は対面授業									
① 児童文化とキリスト教									
② 聖書物語に親しむ									
3	旧約聖書 (1) イスラエルの先祖								
4	旧約聖書 (2) エジプト脱出・イスラエル王国								
5	旧約聖書 (3) 預言者の時代								
6 新約聖書 (1) イエスの生涯									
7	新約聖書 (2) イエスの行いとことば								
⑧ カトリックの伝統と宗教行事									
9	子どものための聖人伝								
10	クリスマスと児童劇								
⑪ キリスト教児童文学									

<p>日本で読まれる西洋の名作（1） The Happy Prince</p> <p>⑫ The Happy Prince とキリスト教精神</p> <p>13 日本で読まれる西洋の名作（2） The Selfish Giant</p> <p>⑭ 日本のキリスト教児童文学（1） 「天までとどけ」</p> <p>⑮ 日本のキリスト教児童文学（2） 「天使とくつした」</p>
<p>●試験</p>
<p>期末レポートは期末試験時に提出する。</p>
<p>●試験のフィードバックの方法</p>
<p>提出されたレポートは、コメントを付して返却する。</p>
<p>●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事前に指定された配布資料または教科書を読んでから、毎回の授業に臨む。（1時間～3時間） ・復習として、課題を振り返り、理解を確かにし、課題レポートや期末レポートに備える。（1時間）
<p>●必携書（教科書販売）</p>
<p>『子どものための旧約聖書』，菊池多嘉子，サンパウロ</p> <p>『小学生の聖書 新約』，木村義男，サンパウロ</p>
<p>●必携書・参考書等（教科書販売以外）</p>
<p>必要に応じて印刷物を配布する。</p>
<p>●オフィスアワー</p>
<p>オフィスアワーは授業中に指示する。</p>
<p>●連絡先</p>
<p>shusuke@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>●留意事項</p>
<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オンラインによる授業では、授業時間内にマナバフォリオのレポート機能を通じて出される課題に各自で取り組む。課題を提出後、模範解答や講評を公開する。課題提出が出席とみなされる。 2) 11回から13回の授業で使用するテキストは英文である。 3) 課題レポートと期末レポートは、必ずワードで作成し、マナバフォリオのレポート機能に添付して提出する。